

# 家庭・地域との連携を活かした読書活動の推進と情報活用能力の育成

石川県 白山市立千代野小学校

## 基本データ

所在地	白山市千代野東4丁目 1番地
児童生徒数	457人
教職員数	41人
蔵書数	16,227冊
年間貸出冊数	81,819冊

## テーマ・活動のねらい等

【テーマ】公共図書館、地域との連携体制、ネットワークの構築、情報活用能力の育成、情報機器の活用

### 【活動のねらい】

- 親子読書を通して、児童の生活の中に習慣として読書が定着し、その習慣が生涯にわたってより確かなものとなるようにする。
- 図書館間の相互貸借により、最新で最適な資料が児童一人一人に確実に行き渡り、授業における学習効果がさらに上がるようにする。
- 朝読書の読み聞かせにより、児童が読書の魅力を味わい、多様な本と出会う契機とする。
- 各教科の授業における探究的な学びを生かし、日々の生活から疑問をもち、テーマを絞り、調べ方を工夫しながら疑問を解決し、相手に伝わりやすくまとめ、発信する力を育成する。

## 取組・活動の概要

- 本校では、子どもたちが読書意欲を高め、読書活動・探究活動を活発に行うよう、学校・家庭・地域の連携を重視し、子どもたちの読書力・情報活用能力を向上させる取組を行っている。

### (1) 日常的な読書活動（家庭や地域との連携）

- ①全校一斉朝読書（毎週水曜日と年3回の読書週間）
- ②読書記録
  - 年間を通して読書のあゆみを記録、担任や司書が定期的に目を通し、子どもたちの読書の様子を把握。
- ③ボランティアの活用
  - 朝読書や昼休みに地域ボランティアや保護者による読み聞かせやブックトークを実施。
- ④読書週間の取組
  - 図書委員のおすすめを入れた「本のお楽しみ袋」の貸出、一緒に本を選ぶお悩み相談員、おすすめ本アンケートの実施とランキングの発表など、子どもたちが主体的に本に親しめるような取組を図書委員の児童が中心となって実施。
- ⑤家読や親子ふれあい読書の実施
  - 毎月23日のいしかわ学校読書の日にあわせて家読を実施。本や家読の感想を子どもだけでは

なく保護者もカードに記入。

- 司書は次に読むと良い本などのコメントを記入し、毎月掲示。
  - 夏休み中に親子ふれあい読書を実施。
- ⑥親から子へおすすめする本アンケート
- アンケート結果を冊子にして配付。図書館前に「親から子へおすすめする本」コーナーを設置。



図書館前の「親から子へおすすめする本」コーナー

### ⑦給食とのコラボレーション

- いしかわ学校読書の日に本の中の料理が給食に登場するおはなし給食を実施。

### (2) 学校図書館を活用した授業 (市立図書館・市内学校図書館との連携)

- ①図書館を活用した授業を教育課程に位置付け
  - 言語活動の充実、情報活用能力の育成のため、図書館を活用した授業を教育課程に位置付け、

学年ごとに図書館活用計画を作成。

- 教諭と司書が連携して作成した並行読書ブックリストを国語科で活用。
  - 問いの作り方、レポートの書き方、著作権、引用と要約、参考文献の書き方をパネルにした「調べ学習セット」を各学年に配付、調べ学習の際のミニ指導に活用。
  - 問いを絞るためのワークシートや情報カードを図書館やパソコン室に配置し、活用。
- ②ネットワークを活用した情報・資料の収集
- 白山市立松任図書館内には学校図書館支援センターが設置され、支援スタッフ2名が常駐。
  - 市立図書館・市内学校図書館間の相互貸借が可能な「図書配送システム」により授業に活用できる図書資料の収集・整理・管理を実施。

### ③市立図書館での成果物の展示

- 国語科で作成した子どもたちの学習成果物を、市立図書館内に本と並べて展示。



市立図書館に展示された児童の作品

### 取組・活動の工夫や特徴

- 通信の発行や、校内・市立図書館で読書活動や調べ学習の様子がわかる展示・掲示を行い保護者の読書への意欲を喚起。
- 各所での図書貸借状況を相互に情報提供しながら市内図書配送システムを活用、時間的・量的余裕を持って授業者に図書資料を活用して貰えるよう工夫。
- 児童の読む本のジャンルを広げるため、地域ボランティアと連絡調整しながら本の紹介や読み聞かせを実施。
- 調べ学習のテーマの絞り方や資料の探し方、使い方、事実と考えを分けたまとめ方、著作権について等、授業者と連携しながら指導。

### 取組・活動の成果や今後の展望

#### 【成果】

- 調べるためのスキルを繰り返し学習、活用する機会をもつことで、知りたいことがあった時にはすぐに調べる習慣の定着。
- 疑問に思ったことを、資料を活用して解決しようとする意欲、調べていく上で出てくる新たな疑問を、さらに調べて解決したいという知的好奇心が向上。
- 授業者が問いを意識して調べ学習を行わせる実践が増加。
- 年間計画に基づき図書館を活用する授業実践が定着。図書館での授業時数は年間460時間。学級で図書資料を活用して行う授業のために1,550冊の資料を貸出。



図書館を活用する授業の様子

- 図書館を活用した授業のために市立図書館や他の学校図書館からは「図書配送システム」を利用して1,280冊借り受けて対応。

#### 【今後の展望】

- 指導者の誰もが活用できる共有財産にするため、並行読書や調べ学習で活用した図書リスト蓄積・更新。
- 児童の年間読書冊数は年々増加傾向。地域・家庭と連携しながら子どもたちの読書習慣の確立の継続的な推進。
- 読書の幅や質の向上が図られるよう取組のさらなる充実。
- 学校図書館が教育課程全体において一層効果を発揮できるようカリキュラム・マネジメントが今後必要となる。その上でも、本を通じて児童の成長に関わる全ての人とさらに綿密な連携を図っていきたい。